

1. 調査報告概要表

作成日 2008年2月12日

【評価実施概要】

事業所番号	4772800076
法人名	有限会社 豊
事業所名	グループホーム 光風の家
所在地	〒901-0213 沖縄県豊見城市高嶺299-1 (電 話) 098-840-6595

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年1月24日

【情報提供票より】平成19年12月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 14年2月1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤8人, 非常勤 4人, 常勤換算11 人	

(2)建物概要

建物構造	RC造り
	2 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 10,000/月 円
敷 金	有(円) ☒ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	☒ 有(60,000円) 無	有りの場合 償却の有無	☒ 有/無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(平成19年12月11日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2			名
要介護3	3 名	要介護4		2 名	
要介護5	2 名	要支援2			名
年齢	平均 87 歳	最低 76 歳		最高 96 歳	

(5)協力医療機関

協力医療機関名	西崎クリニック、石井歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の個人宅1階にある当ホームは居心地の良い我が家という感じがする。狭いながらも明るく、いつも職員の目が行き届く食堂には穏やかなBGMが流れ、認知症を有する利用者も、度々訪れる家族も、職員との談話を楽しんでいる。管理者は設立の理念を大切にし、地域密着型の役割と意義を職員と共に日々のケアに活かせるよう前向きに努力している。利用者と向き合う姿勢も優しく、利用者の中にはスタッフの一員のようにテキパキ働く方もいて、生活の場所という感じを受けた。訪問診療や看護師の配置、上階が管理者宅ということも利用者へ安心を与える。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善点で上げられた点はほとんど改善されている。デッキを設けてくつろぎの空間作りを実践したり、入浴支援も利用者の意向に沿うよう改善されている。まだ改善されていない市町村や地域とのかかわりについては、運営推進会議の定期的開催も含め積極的な働きかけをお願いしたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価の改善点を真摯に検討し、改善に向けた努力が見られる。今回の自己評価も全員が持ち帰って記載する等、外部評価も含めて評価に対する管理者、職員一丸となった取り組みがなされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議はまだ1回しか開催されていない。内容的にはホームの紹介と設立の趣旨を説明するに留まっており、委員間の認識にも少々ズレが生じていたため、近日中に第2回目の開催予定である。今後は委員の数も増やし、開催場所等も参加者に考慮して定期的な開催を試みるとのことである。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	比較的面会にくる家族は多く、意見や要望、相談等は多々伺っているようである。意見箱の利用はあまりなく直接訪問時や電話等での働きかけが主である。利用者の写真等はメッセージを添えて郵送しているが、事業所便りは去年は1回しか発行していないので、今後は年2~3回は発行したいとのことである。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	設立5年目でようやく地域への認知度も増してきたが、まだまだ積極的な連携を図るまでにはいたっていない。災害時の協力体制作りやその他課題も多いが、ミニディへの職員派遣や認知症の講習会等を主催して、地域への還元も取り入れて行く予定である。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設創設者の制定した理念も大切にしながら、地域密着以後はスタッフ全員で自分たちの言葉で新たな介護理念を作り、高齢者を人生の先輩として敬い、地域に根ざしたサービスの提供を目指すことを謳っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	業務日誌に印刷されており、朝の申し送り時には復唱すると同時に、常にその解釈について職員間で話し合い、理念の実践についても前向きに取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設5年目によりやうく地域の認知度も高まってきたが、活動としては管理者の参加が主で事業所として地域の行事等に参加するまでにはいたっていないが、今後は認知症理解へのアプローチ等も含めた働きかけを検討中である。	○	古くからの共同体を有する地域柄、認知症の理解を深めることも肝要かと思われる。ミニデイへの参画や地域の行事への事業所全体としての参加、保育園等との交流も合わせて行っていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善点(デッキを設けてくつろぎの空間作り)を実践したり、今回の自己評価も全員が持ち帰って記載する等、評価に対する真摯な取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催は1回のみに留まっているが、2月に2回目を開催予定である。家族や地域への理解を深め、会議の円滑な運営を目指している。	○	事業所のみで利用者を支援するのではなく、地域で支えていく上でも、地域密着型サービスとしての運営推進会議の活用はとても重要なので、定期的な開催を軌道に乗せていただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	パンフを届けるに留まり、まだ積極的な協力体制を取るまでには至っていないため、運営等に関しては行政との連携より事業所内で抱えていることが多い。	○	市町村は介護保険の保険者としても事業所とは活発な連携を保つことが必要であり、介護サービスの質の向上を図るためにも、積極的な働きかけをしていただきたい。
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	折々の写真等をメッセージを添えて郵送したり、電話や受診時やカンファレンス、面会時に利用者の暮らしぶりや健康状態、事業所の状況等を報告している。今後は事業所便りを年2～3回に増やしていく予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回のアンケート調査や、面会時には積極的に声かけして、なるべく家族等の話を聞く機会を設けている。意見箱はあまり利用はなく、今後は意見や不満、苦情等が積極的に表出されるよう、ホームページの活用等も思考中である。	○	運営推進会議へも積極的に家族を巻き込んで、利用者の代弁や家族としての声の受け皿づくりに取りくんでいただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	最小限に離職を抑える努力はしているが、若い職員が資格取得のために離職することが多く、そのつどカンファレンス時に紹介して引継ぎがスムーズに行われるよう支援している。また離職後も行事等で必要なときには来てもらい、利用者との旧交を温めてもらっている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は有料、無料に関わらず積極的に参加させている。受講後は必ず伝達研修を実施して、他の職員への周知を図る努力をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修会や勉強会等に積極的に参加して、日々のケアに活かすと共に、近隣の施設とのネットワーク作りを通して、事業所見学や入所者への案内等の協力体制の構築に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験を通して慣れてもらうよう努力している。また近隣の通所施設からの帰りに送迎バスで来所し見学することも多い。本人や家族との話し合いも多々行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護理念にも掲げているが、高齢者を人生の先輩として敬い、三味線や詩吟など指導を受けて敬老会等で発表の場を設けている。日常の会話の中でも正しい方言等も教えを受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントや家族からの聞き取りや、日常の会話の中から本人の希望や意向等を汲み取り、若い頃の勤務先へのドライブや家族の面会への働きかけ等可能な限り実現できるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	細やかなアセスメントと本人、家族、担当者等が参加して行われるカンファレンスや、面会時などに頻繁に話し合いを持ち、本人本意の介護計画の作成に努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	地域密着型になってからは家族は勿論のこと、近隣の知人の情報も得ながら、見直しを行っている。急変時にも随時関係者と話し合いを持ち、対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族と相談しながら盆や正月、その他行事等、外出や外泊の支援をしており、独居の方には職員が希望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人と家族の意向を確認し、4人の利用者は訪問診療を受けている。基本的に家族が受診に付き添っているが、対応できない場合には職員が同行している。受診の際には経過報告書を持参させ、本人の健康状況を細かに伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	面会時やカンファレンスで何人かの利用者家族とは話し合ったことがあるが、まだ具体的な情報の共有までには至っていない。施設環境の問題等でターミナルケアを実際に行うには課題も多い。	○	グループホームにおける終末期ケアは必要不可欠であり、早い時期から関係者全員で取り組むことをお願いしたい。全員が同意して方針を共有するためにも、繰り返し話し合いを持っていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄等は直接記載せず、□・△・○・・・と、本人の羞恥心を考慮した呼称、記録をしている。また定例ミーティングで言葉遣いが馴れ合いになっていないかなど、あらゆる場面での関わり方をみんなで点検している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、できる限り本人のペースを大切にしている。家族が食事介助に訪れたり、好物を届けたりと細かな連携が見られる。入浴も個別に行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのヒゲ取りなどの下ごしらえから調理、配膳、食器洗いと、能力や希望に応じて利用者と職員が協力して行っている。職員の声かけで、利用者や家族もにこやかに食事が進んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴は1日置きだが、本人の希望、必要性に応じて対応し、入浴嫌いな利用者にも無理強いせず、声かけして入浴を促している。現在、浴槽利用者はいないが、対応は可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の下ごしらえ、お茶パック入れや洗濯物たたみ、食事の支度等、利用者の好みに応じて役割をお願いしている。職員のマッサージをしてくださる利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	立地環境としては歩道が整備されていない急な坂に面しているため、散歩は厳しいので体調や天気の良い日は、家族の協力もお願いして少人数で近隣へのドライブへ誘っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には虫除けの網戸のみでドアは開放し、施錠は外部からの進入が心配される夜のみ行っている。食堂に面したカウンターで記録も行うため、利用者に対する見守りは常時行われている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員間の話し合いや地元の消防署からもアドバイスは受けているが、まだ地域に協力を要請するまでにはいたっていない。	○	全国的にもグループホームの場合は、災害対策の重要性が謳われているので、早急にマニュアル等を作成して、地域への協力要請をお願いしたい。職員間でも災害時の役割分担や連絡体制の強化を周知徹底させていただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとの水分摂取表や食事摂取表を作成し、摂取量の把握に努めている。尿路感染症の利用者にはポカリスウェットの摂取や、嚥下困難な場合はトロミや甘さを加えて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	狭いながらも室内は明るく、BGMも心地良い。ミキサーを使用する際にも「一声かけて」と利用者を驚かさないう注意を喚起している。	○	スペース的に厳しいと思われるが、すべて椅子のみの生活となっているため、利用者や面会の家族がくつろげる畳間の検討もお願いしたい。将来的に終末期ケアの際の家族の控え室等にも使用できると思われる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ぬいぐるみや寝具等は使用しているが、居室にはほとんど家具等の持ち込みはない。コップのみは入所の際に家族にお願いして持参してもらっている。		